

2019年3月8日

子宮頸がんから日本人女性の命と健康を守るための

科学的な言論活動を支援する声明

「守れる命を守る会」

代表 石渡 勇



2016年3月16日、科学的・倫理的に問題の多い厚生労働科学研究班の主任研究者である池田修一信州大学元教授が、「子宮頸がんワクチンを打ったマウスだけに脳に異常な抗体が沈着して、海馬の機能を障害していそうだ」「明らかに脳に障害が起こっている。ワクチンを打った後、こういう脳障害を訴えている患者の共通した客観的所見が提示できている」と説明する映像がTBS「NEWS23」で全国放送されました。

これに対し医師でジャーナリストの村中璃子氏は、月刊「Wedge」に「子宮頸がんワクチン薬害研究班 崩れる根拠、暴かれた捏造」と題した記事を寄稿して同研究発表の杜撰さを指摘し、反響を呼びましたが、池田氏は学会や論文など科学の場での反論はいつさい行わず、村中氏やWedge社に対する名誉棄損訴訟を起こしました。

子宮頸がん（HPV）ワクチン問題をはじめ、科学的な言論活動により、科学的に正しい情報を広く提供していくことは、国民の健康と命を守ることに他なりません。綿密な取材と科学的な考察をもとに発信された記事であったにもかかわらず、裁判が提起されてからの約2年半というもの、村中氏の言論活動は極めて困難なものとなっていました。かかる状況で村中氏は、2017年末、英科学誌Nature等が主催するジョン・マドックス賞を受賞しました。同賞は、訴訟などの攻撃や敵意にさらされながらも、健全な科学を広めるために貢献した個人に授与される国際賞です。一方、厚生労働省は「不適切な発表によって国民に誤解を招く事態となったことについて、池田氏の社会的責任は大きい」との見解を示しています。同裁判は来る3月26日（東京地裁、13:15-～527号法廷）に一審判決を迎えます。

「守れる命を守る会」は科学的な言論を支援し、科学的な言論活動に対する誹謗、中傷、訴訟等を受けた者を支援する団体です。今日、国際女性デーに際し、当会は女性の命と健康を守るための科学的言論活動を引き続き支援していくことを宣言します。

以上